

廃食用油の回収 札幌圏で本格化

バイオディーゼルに再生



札幌市では使用済み天ぷら油を精製し、公園のバス燃料に使う実験を始めた(1日、サッポロさくらんぼ)

建設や外食など十五社が参加する北海道バイオディーゼル研究会(札幌市)とシンクタンクのヒット総合研究所(同)、札幌市は共同で、家庭の使用済み食用油を、軽油の代替燃料に再生する事業を本格化する。来年度中をメドに道内最大の処理施設を新設。外食店やスーパーなどに約一千万所の回収拠点を整える方針で、二〇〇九年度に処理を開始。全国有数のリサイクル体制を目指す。

企業15社や 札幌市など 処理施設新設へ

札幌市内かその近隣に、廃食用油を原料に一日五キロのバイオディーゼル燃料(BDF)を生産する設備を新設する計画。処理能力はBDF活用で先行する京都市の施設と同規模となる。メタノールを加えて化学反応させるタンクや土地なども含め、投資額は三億四億円の見通し。設備の運営企業などは今後詰める。

並行してスーパーや小売店、公共施設などの回収拠点を進める。家庭でペットボトルに詰められた廃食用油をそのまま引き取ったり、備え付けのタンクに移し替えてもらったりする回収法を検討し

から約百五十キロを回収・処理した。北海道バイオディーゼル研究会などは外食・小売店を回収の核とする「札幌モデル」の確立を目指す。

当面は給菜・食品工場などの廃食用油の処理が中心となる見通しだが、PRを進め家庭からの回収を普及。年間に処理できる千五百キロのうち、一割を家庭の廃食用油としたい考えだ。

同研究会は伊藤組土建(札幌市)など道内外の建設会社やアレフなどが参加している。

並行してスーパーや小売店、公共施設などの回収拠点を進める。家庭でペットボトルに詰められた廃食用油をそのまま引き取ったり、備え付けのタンクに移し替えてもらったりする回収法を検討し